

第62回全国社会教育研究大会新潟大会 第51回関東甲信越静社会教育研究大会 第20回新潟県社会教育研究大会長岡大会

- 大会スローガン 未来につなぐ「米百俵」
～フェニックスの地ではじまるこれからの社会教育～
- 研究主題 新しい社会教育をデザインする
～つなぎ はぐくみ 響き合う 生涯学習社会の実現～
- 大会期日 令和2年11月11日（水）～13日（金）
【会場】シティホールプラザ「アオーレ長岡」他

「分科会」運営マニュアル2

<令和2年11月13日（金）9：30～12：00>

■分科会の全体コンセプト

研究主題「新しい社会教育をデザインする」に基づき、各テーマについて、「一人一人がつなぎ はぐくみ 響き合う 生涯学習社会の実現に向けて 何ができるか」について、「事例研究」という形で、参加者一人一人が何ができるかを考える場とする。

■分科会発表市町村（団体）

- 1 分科会「学校との関わり」……………担当：新潟市
新潟市「社教委員」 青森県つがる市「社教委員」
- 2 分科会「家庭との関わり」……………担当：中越
燕市「社教委員」「きらら」
静岡県裾野市「東地区おやじの会」
- 3 分科会「地域との関わり」……………担当：上越
糸魚川市「西海地区公民館」
石川県川北町「社教委員」
- 4 分科会「社会教育施設との関わり」担当：中越（県社）
長岡市「まちなかキャンパス長岡」
長野県松本市地区公民館
- 5 分科会「多様な人との関わり」………担当：下越
村上市「希楽々」
高知県土佐市高知新聞高岡西販売所

事例発表①

■事例発表（話題提供）新潟県

事例発表②

■事例発表（話題提供）他県

■助言者・コーディネーター・記録者

- ・コーディネーター（司会）
- ・助言者
- ・記録者
- ・責任者
- ・受付 ・案内 ・マイク ・写真

■事例研究（グループワーク）

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策のもとで全分科会が同じ形式のワークショップで行う。
- ・4～5人グループでのフリップ・ディスカッションを通じて、研究主題について考える。

フリップ・ディスカッション

■特性■

- ◇視覚的に思いが表現できる。
- ◇自分の考えや思いが整理できる。
- ◇気軽に話し合える。
- ◇グループの全員が発言できる。
- ◇発言することが苦手でも、フリップを使うことで比較的容易に話ができる。
- ◇参加者の価値観や考え方の多様性が理解できる。

■方法■

- ① 4、5人のグループをつかって、車座になる。
 - ② テーマについて、思いや考えたことを短い言葉や絵で大きく用紙に書く。
(大会要項の中に白紙ページを5P追加)
 - ③ フリップ（要項に書いたもの）を見せ合い、書いた思いを紹介し合う。
 - ④ 時間いっぱいテーマについて話し合う。
 - ⑤ ②～④を繰り返す。
- ※1問目は、自己紹介としてもよい。
- ※質問は、気軽に考えるものから徐々にねらいに迫るものにする。
- ⑥ グループの話し合いの後、代表が全体に発表したり、ファシリテーターが紹介したりする。

■留意点■

- ◇書くことが思いつかない場合は、無理強いをしない。思いを発言するように伝える。
- ◇会の終末には、グループでの話し合いの様子を、全体に広げる工夫をする。

フリップ・ディスカッション 進行例

40分程度の設定の場合

① ワークの説明を聞く（1分）



これから、いくつか質問をします。
その質問について、思いや考えを短い言葉や絵で大きくフリップに書いてください。
グループのメンバーに見えないように書いてください。
皆さんが書かれたら、私が「せーの・どん!!」と声をかけるので、一斉にフリップを見せ合い、なぜそう書いたか、思いを出し合ってください。

② 質問を聞いて、思いや考えをフリップに書く（1つの質問につき2分）

それでは、最初の質問です。
(以下、【質問例】を参考に進める。)



【質問例】

- 半分より上に「私是一見、〇〇ですが」の〇〇部分を、半分より下に「実は□□です」の□□部分を書いてください。
- 事例発表を聞いて心に残ったことは何ですか。
- あなたの地域の公民館はどんなことをしていますか。
- 公民館でやってみたいことは何ですか。
- そのために、あなたができることは何ですか。

③ フリップを見せ合い、話し合う（1つの質問につき1人1分程度）



（傾合いをみて）
それでは、見せ合しましょう。「せーの・どん!!」
グループで思いを紹介し合ってください。
時間をとりますので、時間いっぱい話し合ってください。

④ ②～③を繰り返す（30分）

⑤ 他のグループの発表を聞く（9分）

「ファシリテーターが指名した人が発表する」「全員が発表する」
「ファシリテーターが紹介する」など、臨機応変に対応する。

※ふり返りと分かち合いの活動につなげる。

分科会の展開

※進行役：コーディネーター

5

展開	TIME		学習活動	内容	コーディネーターの役割
①	受付			指定席（番号表示）基本5人グループ	
②	9:30	5分	【コーディネーター】 日程説明及び助言者の紹介		※事例発表者に予め様式を提示し、それに基づいて発表してもらう ①活動のきっかけ(地域の課題は何だったのか) ②主な活動/取組内容 ③今後の取組に係る課題と方向性 ④参加者から聞きたいこと（情報提供してほしいこと）
③	9:35	5分	【コーディネーター】 分科会の趣旨及び事例発表者の紹介		
④	9:40	30分	事例発表①	・事例紹介（20分） ・質問・情報交換タイム（10分）	
⑤	10:10	30分	事例発表②	・事例紹介（20分） ・質問・情報交換タイム（10分）	
⑥	10:40	10分	休憩		4～5人グループになって椅子を移動してから休憩に入る。
⑦	10:50	45分	グループでの話合い	・フリップ・ディスカッション ・意見交換	①ワークショップの進め方、留意点等を説明する。 ②3～5個の質問をする。 ③最後に研究主題にせまる質問をする。
⑧	11:35	10分	全体での共有化	・各グループの話合いから （適宜、助言者からもコメント）	※発表するグループをコーディネーターによる指名制で行う。（3分×3グループ程度） ※⑦⑧を一緒にして、質問ごとに、発表の時間を設定してもよい。
⑨	11:45	15分	助言者によるまとめ		
⑩	12:00		コーディネーターからの謝辞		

会場イメージ（例）

- 椅子だけを使用する
 - 新型コロナウイルス感染予防対策として椅子の間隔を空ける。
- 事例発表者は**スライド**（パワーポイント）を使用
 - 発表者が話を進めやすい
- 全参加者の視覚に訴え、理解を促しやすい
 - グループワークは、4～5人で椅子を移動し、間隔をとって輪になって行う。（指定席）
- フリップ・ディスカッション形式で、マスク着用のもとで行う。



■分科会の全体コンセプト

研究主題「新しい社会教育をデザインする」に基づき、各テーマについて、「一人一人がつなぎ はぐくみ 響き合う 生涯学習社会の実現に向けて 何ができるか」について、「事例研究」という形で、参加者一人一人が何ができるかを考える場とする。

第1分科会テーマ

「学校との関わり」～学校を核にした社会教育による地域づくり～

事例発表①

新潟市社会教育委員

「学校と地域の連携・協働」

～高校・公民館・地域住民のつながる活動～

事例発表②

青森県つがる市社会教育委員

「地域と学校の連携、協働

における地域づくり」

■助言者・コーディネーター・記録者

- ・コーディネーター（司会） 小川 崇 氏
- ・助言者 新潟大学教職大学院准教授 雲尾 周 氏
- ・記録者 （新潟市 ）（新潟市 ）
- ・責任者 新潟市生涯学習センター
- ・受付 （新発田市 ）（新発田市 ）
- ・案内 （佐渡市 ）（佐渡市 ）
- ・マイク （中社連 ）（中社連 ）
- ・写真 （新潟市 ）（上社連 ）

■事例研究（GW形式）

- ・事例発表をもとにして、グループワークを通して、研究主題について考える。
- ・フリップ・ディスカッション形式で、4～5人グループで行う。

月
日
曜
日

■分科会の全体コンセプト

研究主題「新しい社会教育をデザインする」に基づき、各テーマについて、「一人一人がつなぎ はぐくみ 響き合う 生涯学習社会の実現に向けて 何ができるか」について、「事例研究」という形で、参加者一人一人が何ができるかを考える場とする。

第2分科会テーマ

「家庭との関わり」～地域のつながりによる家庭教育支援：親も地域の一員～

■助言者・コーディネーター・記録者

- ・コーディネーター（司会） 井口 和司 氏
- ・助言者 新潟大学教職大学院准教授 中島 伸子 氏
- ・記録者 （燕市 ） （胎内市 ）
- ・責任者 中越教育事務所
- ・受付 （胎内市 ） （胎内市 ）
- ・案内 （聖籠町 ） （聖籠町 ）
- ・マイク （中社連 ） （中社連 ）
- ・写真 （燕市 ） （上社連 ）

事例発表①

燕市社会教育委員・家庭教育支援チーム「きらら」

「食育活動から展開する家庭教育」

事例発表②

静岡県裾野市東地区おやじの会代表

「子供たちを中心とした

地域、学校、家庭をつなぐ仕掛け」

■事例研究（GW形式）

- ・事例発表をもとにして、グループワークを通して、研究主題について考える。
- ・フリップ・ディスカッション形式で、4～5人グループで行う。

月
日
曜日
日

■分科会の全体コンセプト

研究主題「新しい社会教育をデザインする」に基づき、各テーマについて、「一人一人がつなぎ はぐくみ 響き合う 生涯学習社会の実現に向けて 何ができるか」について、「事例研究」という形で、事例を「たたき台」として、参加者一人一人が何ができるかを考える場とする。

第3分科会テーマ

「地域との関わり」～地域の元気を引き出す社会教育～

■助言者・コーディネーター・記録者

- ・コーディネーター（司会） 中島 憲一 氏
- ・助言者 上越教育大学准教授 辻村 貴洋 氏
- ・記録者 （糸魚川市 ）（五泉市 ）
- ・責任者 上越教育事務所
- ・受付 （五泉市 ）（五泉市 ）
- ・案内 （阿賀町 ）（阿賀町 ）
- ・マイク （中社連 ）（中社連 ）
- ・写真 （糸魚川市 ）（上社連 ）

■事例研究（GW形式）

- ・事例発表をもとにして、グループワークを通して、研究主題について考える。
- ・フリップ・ディスカッション形式で、4～5人グループで行う。

事例発表①

糸魚川市「西海地区公民館」

「地域の元気を引き出す社会教育」

～「西海地区地域づくりプラン」の活動理念と取組について～

事例発表②

石川県川北町社会教育委員

「小さいからこそできる

川北町を好きになる子どもづくり」

月
日
曜日

■分科会の全体コンセプト

研究主題「新しい社会教育をデザインする」に基づき、各テーマについて、「一人一人がつなぎ はぐくみ 響き合う 生涯学習社会の実現に向けて 何ができるか」について、「事例研究」という形で、参加者一人一人が何ができるかを考える場とする。

第4分科会 テーマ

「社会教育施設等との関わり」～魅力ある地域づくりのプラットフォーム～

■助言者・コーディネーター・記録者

- ・コーディネーター（司会） 樋口 健一 氏
- ・助言者 全国社会教育委員連合
常務理事 馬場 祐次朗 氏
- ・記録者（長岡市 ）（阿賀野市 ）
- ・責任者 中越教育事務所（県社連事務局）
- ・受付（阿賀野市 ）（阿賀野市 ）
- ・案内（粟島浦村 ）（粟島浦村 ）
- ・マイク（中社連 ）（中社連 ）
- ・写真（長岡市 ）（上社連 ）

■事例研究（GW形式）

- ・事例発表をもとにして、グループワークを通して、研究主題について考える。
- ・フリップ・ディスカッション形式で、4～5人グループで行う。

事例発表①

長岡市「まちなかキャンパス長岡」

「『学び』と『交流』の拠点として」
～長岡の人が育つまちづくりを目指して～

事例発表②

長野県松本市第三地区公民館

「公民館の講座からはじまった
住民主体のまちづくり」

■分科会の全体コンセプト

研究主題「新しい社会教育をデザインする」に基づき、各テーマについて、「一人一人がつなぎ はぐくみ 響き合う 生涯学習社会の実現に向けて 何ができるか」について、「事例研究」という形で、参加者一人一人が何ができるかを考える場とする。

第5分科会テーマ

「人と人とのつながり」～地域の人をつなぐ社会教育・社会活動～

■助言者・コーディネーター・記録者

- ・コーディネーター（司会） 櫻井 和宏氏
- ・助言者 新潟リハビリテーション大学
准教授 松林 義人氏

事例発表①

村上市NPO法人「希楽々」

「ささえ隊・つながり隊・つくり隊」

～高齢者が活躍して障がい者が笑顔になるまち～

- ・記録者 (村上市) (関川村)
- ・責任者 下越教育事務所
- ・受付 (村上市) (村上市)
- ・案内 (関川村) (関川村)
- ・マイク (中社連) (中社連)
- ・写真 (村上市) (上社連)

事例発表②

高知県土佐市高知新聞高岡西販売所

「～つながる・つなげる～

地域は一つの大家族」

■事例研究（GW形式）

- ・事例発表をもとにして、グループワークを通して、研究主題について考える。
- ・フリップ・ディスカッション形式で、4～5人グループで行う。